日本ボストン会会報

発行者　日本ボストン会事務局

ボストン総領事館開館の思い出

代表幹事　井口武夫

私は４０年間勤めた外務省を昨年退官し、東海大学で国際法を教えておりますが任地で一番思い出に残っているのがボストンです。ここは米国の教育の中心地として名声が高く、日本を研究する優秀な学者・専門家も多く、各地の大学巡りを致しました。

ニューイングランドの落ち着いた環境と建国の理想に生きる米国人のコミュニティーに触れ、現地学会・経済界の方々と親交を温めたことは幸せでありました。

マサチューセッツ州がハイ・テクノロジーを重視し、日本の投資を歓迎したことも新総領事館の仕事に張りを与え、日本電気（株）の高木さん等と各地で共同の講演旅行をしたのも懐かしい思い出です。

開館当時は人手不足に苦しみましたが、その折りに暖かい協力の手を差し伸べてくれたのが、ボストン日本人会であり、会長・副会長をされた増淵・堀内・久野さん他多数の皆様にお世話になりました。

また、米国側のジャパン・ソサエティーのオルデン会長以下役員の方々にも何かにつけて助言や支援を戴き、有り難く存じております。

３年がかりで日本人学校も充実させ、日本から教員の方々も来て戴き、現地のお役に立ったかなと思ってボストンを去ったのが、１０年前になります。

今回、吉野先生の後を受けて日本ボストン会の代表幹事をお引受することになったのも、この時のご縁があったと考え、草の根交流のお手伝いをさせて戴きます。宜しくご支援の程お願い申し上げます。

不在の代表幹事の終わりに

吉野耕一

３年前にボストン日本人会会長に就任したさい、たまたま当時副会長だった藤盛氏が帰国される事になりました。その時日本でボストンから帰国された方々の会を作る事を藤盛氏にお願いしました。

２年後に東京工業大学で発会式が開かれました。短期間にここまで出来たのは藤盛氏を始めとして、神部、俣野、土居、米田、和田、柳沢、酒井、当間、近藤諸氏およびご夫人方のご努力によります。

発会の時に代表幹事を依頼され、日本在住の幹事の選出までの条件で引受け、不在のまま今日まで続いてきました。

２年の間に日本ボストン会の組織も確立して、その活躍も本家のボストン会以上になっています。ボストンから帰国された皆様が、ボストンを思い出しながら楽しめる会になった事を喜んでおります。

今年の正月に日本人会会長の任期も終わり、石川先生が会長になられました。　代表幹事を退く時が来て、幸いにも初代ボストン総領事で現在東海大学教授の井口先生に引き継ぐ事になりました。藤盛・高木副代表幹事の協力で、今後の日本ボストン会のより以上の発展を祈っております。

ボストンではジャパン・ソサエティーが９０周年、日本人会が３０年、日本語学校が２０年と夫々の年輪を数えています。日本ボストン会も年輪を増やし続けて下さい。不在のまま何も出来なかった代表幹事でしたが、帰国の折りには引き続き参加させて下さるようにお願いしておきます。

小沢征爾／ボストン交響楽団

ベルリオーズ・フェスティバル

日時	平成6年（1994）12月6日・7日・8日・10日　午後7時開演
場所	サントリーホール
入場料	￥23，000、￥19，000、￥16，000、￥12，000、￥8，000
主催	梶本音楽事務所　　協賛　NEC　　後援　アメリカ大使館
申込先	梶本音楽事務所　（03）3289－9999

北海道・マサチューセッツ協会

設立の経緯

北海道開拓が本格的に始められた明治初期、中央政府は、アメリカから農業・土木・鉱業・教育等の専門家を招き、西欧方式の開発に着手しました。

その中には、フォーレス・ケプロン、ウイリアムS.クラーク等多くのマサチューセッツ州出身者が含まれていました。

そのようなことから、北海道とマサチューセッツ州との交流は、はるか明治初期に始まっていると言え　ましょう。近年においても、北海道大学とマサチューセッツ州立大学の交流や、青年・婦人訪問団の派遣等い分野で交流が進められております。

平成元年には、ボストン美術館移動展や、ボストン交響楽団の札幌公演が実現しております。それら交流が基盤になって、平成２年２月、同州の代表団を迎え、札幌で姉妹提携の正式調印が行われました。調印と同時に、これまでにマサチューセッツと関連を持っていたり、同州に関心を持つ個人や法人を会員とする「北海道・マサチューセッツ協会」が設立され、樫原泰明氏（株・伊藤組会長、元北海道副知事）が会長に選ばれ今日に至っております。現在、個人・３５４人、法人・１２２、計４７６会員が登録されております。（会費は個人・壱口３，０００円、法人・壱口２０、０００円)。

活動内容

会報発行（ホーマス・ニューズレター　年３回、英文ニューズレター　１回）の他に、マサチューセッツに関係する講師を迎えて、セミナー年２回開催しております。

また毎年１回、マサチューセッツ州に訪問団を派遣し、相互理解の促進に努めております。

これまで、経済・産業視察団の派遣や、市町村関係者による州内市町村視察を行った他に、平成４年９月には、ジャンボ機をチャーターし、千歳－ボストン間の直行便による３００名の訪問団を派遣し、州内で北海道をＰＲする「北海道ウイーク」を開催致しました。

ボストンでは、州議事堂内で道産品の展示・書道・生け花の展示とデモンストレーション、革工芸品等の展示のほか、バークレー音楽大学院劇場での邦楽と日本舞踊の夕べ、ボストン大学ツアイセンターでの室内楽コンサート（ボストン交響楽団員との合奏）等を通して、マサチューセッツの人々の北海道に対する理解を深めました。

スプリングフィールドでも同様の催しを行いましたが、いづれの都市でも、会場には立ち見をする人が出る程の盛況でした。

一方、受入れは、姉妹提携以来ウイリアムF.ウエルド知事を始めとする州政府関係者のほか、産業・経済・報道関係者等多岐にわたり、去る７月には、アーリントン市派遣の青年研修員４人が来道し、４泊５日の民泊を体験しました。

来年は姉妹提携５周年にあたるため、両地域の交流は一層活発になる見込みです。

当協会も、北海道とマサチューセッツ州を結ぶ掛け橋としてさらに努力する所存ですので、日本ボストン会の皆様におかれましてもよろしくご支援くださるようお願い申し上げます。

北海道・マサチューセッツ協会
理事・事務局長　山下健一

竹中真　ジャズリサイタル

去る６月１０日、青山「アンダンティーノ」にてボストン・バークレー音楽大学院の竹中真先生と同僚のボブ　ピルキントン先生をお迎えして、ピアノとトロンボーンによるジャズコンサートが開催されました。３０余名の参加者はワインを味わいながら、アメリカンリスニング・ジャズのスタンダードナンバーと日本の童謡をアレンジした曲を心ゆくまで楽しみました。主な曲目は下記の通りです。

１。As time goes by.　２。Just in time.
３。Some other time.　４。Round Midnight.
５。Old Cape Cod.　６。Indiana.
７。Georgia.　８。花嫁御寮.

コンサート後は立食パーティで参加者同志の話がはずみました。

竹中先生とピルキントン先生にはボランティアーでご協力を戴き、厚く御礼を申し上げます。

今後も年１回はコンサートを開催して行く予定ですから、皆様のご参加を期待しております。

Ｗｉｎｓｌｏｗ　Ｈｏｍｅｒの世界

（ニューヨークを生きたアーテイスト達展より）

ＷＧ　美術愛好会

アメリカ美術の故郷であるニューヨークでは、多くの芸術家達が生まれ、育ち、成功を夢見て創作活動を続けてきた。

ボストンに生まれ、ニューイングランドの自然をこよなく愛し続けたW. Homer(1836-1910)もニューヨークにやって来た夢多き画家達の一人であった。

４０歳には画家としての名声を誇り、1881年に渡英し、そこで２年間自然と海に生活する人々をドラマチックに描き続けた。その頃描いた自然主義水彩画はイギリス水彩画の影響を受けた。帰国後メイン州に住み、そして1884年の初めにキューバ、バハマを訪れ、カリブ海をテーマに描き続けた。

今回の展覧会での1879年の「リンゴの花摘む娘」、「黄色いジャケット」に見られる様に、初期の風景画の作品にはしばしばこの様な人物が描かれている。自然の美を喜ぶ娘、人と自然の関係が調和を持って直接的に描かれている。印象主義の明るい光の表現が暖かく画面を包み込む。画家は生活への愛を誠実に愛情と新鮮さを持って表現している。見る人に風が花の香り、リンゴの香りを運んでくる様な、そんなみずみずしさを与えてくれる作品と言って過言ではないでしょう。

アメリカ絵画のリーダーとして認識される様になったW.Homer 。今日なお彼の絵に魅せられる人々は少なくないでしょう。

（ 東京都美術館　４／１５－６／１２　’９４）

Édouard Manet(1832-1893)　と Paul Cézanne(1839-1906) の静物画

（Boston 美術館が所蔵する静物画展から）

マネはシャルダン(1699－1779パリ生、静物画家)を尊敬し1860年代にいくつかの静物画を描いている。

その内の一つが、今回展示されたボストン美術館所蔵の「果物の籠」（1866)である。果物と事物とのバランス、テーブルの水平線、そして背景の切り方はシャルダンから学びとったものと言われる。

マネの構成はセザンヌの斜め上からの力強い構成ではなく、常に水平の地点からである。マネの描く果物は新鮮、そしてみずみずしく、それらの甘いにおいさえも感ずる。そして絵は今なおまだ濡れている様である。

セザンヌの描く「卓上の果物と水差し」（１９世紀）は現実から切り離された独自の表現である。微妙に変化する果物の皮、お皿、びんの色、そしてテーブルクロス、背景の色のひびき合いは、心地よい躍動感を見る人に与えてくれる。彼の色の構成の美しさは抽象的である。２０世紀初めの多くの画家達、特にCubists(キュービスト）はモダーンアートの父としてセザンヌを認めた。

ボストンでの数年余り、時には毎日の様に通い、そして感動を持って出会った作品の数々に、また日本で再会出来たことに大いに喜びを感じました。

（横浜そごう美術館　６／２６－８／２８　１９９４）

問合先:　酒井

ボストン桜の木記念植樹

会報第３号にてお知らせ申し上げましたが、「ボストン・チャールス河畔桜の木記念植樹」の運動も、今年は１０周年を迎えました。

植樹式は５月１７日（火）午後３時よりマサチューセッツ州庁舎西庭において、小雨まじりの天候の中、ウエルド州知事ご夫妻、望月在ボストン日本総領事ご夫妻、サイモンボストン日本協会会長をはじめ、州政府関係者、並びに日本人会など約100 名の参列をえて行われました

来賓各位からは、１０年にわたって贈り続けられ、美しく花を咲かせる桜の木に対する賛美と、この事業に賛同し協力を惜しまなかった日本の人々に対する心からの謝意が述べられました。

また、ボストン・ラテン・スクールのダンフォードさんの流暢な日本語の挨拶が会場を沸かせ、ポーリン・A.ショー小学校の生徒２０人による「サクラ」、「It's a small world」の美しい歌声の中、１０周年記念植樹式は無事終了致しました。

この事業に協賛し一口（２万円）の寄付を行いましたので、社団法人国際交流協会（理事長石田克）より、日本ボストン会宛にウエルド・マサチューセッツ知事からの感謝状が送付されて参りました。

ご関心の有る方は同協会にお問い合せ願います。

日本ボストン会入会者

（１９９３年１０月以降１９９４年９月まで）

荒井裕、　横田耕一、　野木秀子、　井口武夫、
橋詰雅樹、田中真二、　中田重夫、　横田健司、
久米生光、百瀬文之、　堀内章、　生田英機、
山田俊彦、渡辺修亨、　泉三郎、　古谷勝、
中埜岩男、高野忠義、　時任顕正、　関場誓子、
棚橋征一、Ａｎｎｅ　Ｃａｌｌａｇｈａｎ，
土屋守正。　（以上２３家族）

日本ボストン会ＣＵＧ

日本ボストン会のＣＵＧをパソコン通信のＰＣ－ＶＡＮの中に作りました。

ＣＵＧ（Ｃｌｏｓｅｄ　Ｕｓｅｒ　Ｇｒｏｕｐ）というのは、ＰＣ－ＶＡＮの機能の一つで、特定の参加者が、ＣＵＧの中　の、電子掲示板や情報提供の機能を利出来るものです。

日本ボストン会ＣＵＧは、日本ボストン会会員相互の連絡や情報交換の場にして頂くために設置しました。まだ会員ではないが、日本ボストン会の活動に興味のある方も歓迎です。

ＣＵＧの中には、日本ボストン会からの「お知らせ」のコーナーや、会員の皆様がメッセージを書いていただくことの出来る「会員の広場」のコーナーが設置されています。活発なコーナーにするために、出来るだけ多くの皆様の参加をお待ちします。

利用して頂くには、予めＰＣ－ＶＡＮのＩＤを登録しておく必要がありますので、ＰＣ－ＶＡＮのＩＤ：ＥＥＮ６０６８３宛に「日本ボストン会ＣＵＧにアクセスしたい旨」をご連絡下さい。

また、ＰＣ－ＶＡＮのＩＤを持っておられない方は、先ず、パソコン通信のＰＣ－ＶＡＮに入会していただく必要があります。入会金が免除されるウエルカムキットがありますので、日本ボストン会事務局にお手紙で、或いは電子メールでＰＣ－ＶＡＮのＥＥＮ６０６８３宛にご請求下さい。

ＰＣ－ＶＡＮへのご参加を歓迎しております。

連絡先：　日本ボストン会事務局
（ＣＵＧ担当：土居陽夫）

幹事会記録

１９９４年６月２７日（月）（１６人出席）

１。各ＷＧ活動報告：

１）レディース会「竹中真ジャズコンサート」
参加者３３名（予定４０名）。６月１０日。
今後ともバークレー、ボストンコンサバトリー等を卒業された方々を支援するコンサートを主催する。（別項参照）

２）吉野美知子のリサイタルを支援（４月７日）
４名出席。花束贈呈。

３）歴史の会（別項参照）

４）ニューイングランド関係者の会
合同でイベントを企画する方向で考える。

５）美術愛好　会（別項参照）

６）音楽愛好　会（Ｃ＆Ｃクラブコンサート）
９月２０日「ダニエル・ゴイツィ　ピアノの夕べ」開催。次回は4 月開催予定。

２。ＰＣ－ＶＡＮ（別項参照）

３。ボストン日本協会創立９０周年記念行事
１０月２１日総会で記念写真撮影。色紙贈呈。

４。ニューハンプシャー「ウエントワース　ホテル」保存活動支援方法討議

５。代表幹事交代（別項参照）

６。ＭＩＴ担当者の交代（佐々木浩二氏）

７。会報４号発行スケジュール・原稿打合せ

８。会計幹事交代に伴う選任

９。次回幹事会（９月６日）

１９９４年９月６日（火）　（出席１　人）

１。会員勧誘状況（別項参照）

２。各ＷＧ活動報告

３。会報第４号の原稿提出状況の報告

４。北海道・マサチューセッツ協会講演会
演題：「北海道とマサチューセッツ、環境問題を通して眺めて見ると」
講師：柳沢幸雄ハーバード大学准教授
日時：９月２１日

５。１９９４年度総会の案内と運営方法討議
１０月２１日。ＮＥＣ三田ハウス芝クラブ。

６。会計幹事交代と経理の簡素化討議

７。ボストン日本人会との連絡打合

８。ボストン日本人会２０周年記念文集支援

日本とニューイングランドの歴史を概観する

藤盛紀明

先日何かの記事で、日露条約をポーツマスで交渉した小村寿太郎がハーバード大学に留学していた事を知りました。彼が時の政府に抜擢されたのはハーバード大留学の経歴が重要なポイントの一つとの事でした。ただその記事は、日本政府が満州の鉄道敷設等で米国に譲歩しつつあるのを、帰国した彼がポーツマス条約の交渉の勢いに乗って強硬姿勢に転換させ、それが第2次世界大戦参戦の遠因であると語っていました。（真偽の程は知りません）

当会には二つの歴史の会があり，現在は一緒に行動しています。現在はどちらかと言うと金子幹事の提唱する「歴史を飲もう会」の雰囲気が優勢せいで、私の提唱する「日本－ニューイングランド歴史研究会」的正調歴史研究の雰囲気が低調です。

そこで現The Japan Society of Boston, Inc.が纏めた日本とニューイングランドの歴史概要を少し示し、正調派の巻き返しを図りたいと思います。但し私が勝手に要約し個人的なコメント・解釈をつけています。興味のある方が一人でも増え、いつか皆で単行本（多分自費出版？もしかしたらベストセラー）を出版したいと夢みています。

（1）　19世紀後半には卓越した日本人が何人かマサチューセッツ　州の大学を卒業しています。新島襄はアムハーストカレッジの卒業で、西側の大学から学士号を得た最初の日本人ではないでしょうか。（1870）

（2）　明治憲法の草案者の金子謙太郎は1878年にハーバード大学から学士号を得ています。

（3）　岩倉使節団と同行した団琢磨はボストンに残りMITを1878年に卒業しました。

（4）　岡倉天心は1905年にボストン美術館の中国・日本部の責任者になりました。

（5）　マサチューセッツ農業大学学長のクラーク先生は1876年に札幌農学校の校長になりました。（日本では神格化されているが、彼は米国の開拓精神旺盛な山っ気の多い人物であったらしい）。

（6）　大森貝塚やピィーボデーミュージアムで知られるモース先生はハーバード大学の卒業生です。ボストン美術館の日本陶磁器の収集に大きな貢献をしています。また、ピィーボデーミュージアムの彼の日本人の生活文化のコレクションも見事ですね。

しかし、何といってもニューイングランドと日本の関係に欠かせないのは、ペリー提督とジョン万次郎でしょう。

この二人の歴史は既に多くの人が研究しているので、わが会の貢献出来る部分は殆ど無いと考えられます。更に、故ライシャワー教授も日米関係の友好に多大な貢献を果たした人物として我々日本人は永久に記憶し続けるでしょう。

アイヴィーリーグで知られるブラウン大学、ダートマス大学、ハーバード大学、エール大学ばかりでなく、MIT、ボストン大学、ボストンカレッジ、マサチューセッツ州立大学、バークレー音学院、ニューイングランドコンサバトリー等々ニューイングランド地方の名門大学を卒業した日本人は何人に上がっているでしょうか？

そしてこれらの人々の日本の発展に尽くした役割はいか程であったでしょうか？

世に研究の種は尽きまじです。

連絡先：

「歴史を飲もう会」報告

金子佳生

今年2月の会合に引き続き、第3回目は5月27日に慶応大学東門前にごく近いユニコン（伊太利料理＊）で開催、オレゴン大学助教授で現在国際交流基金フェロウーとして東京大学史料編纂所でご研究されているアンドリュー・ゴーブル先生をお招きして、先生のご専門の中世日本史、特に医・薬学の文献についてのお話をうかがいました。

＊港区芝5－15－2　電話03-3452-3688

出席者は15名で、美味しいお料理とワインをいただきながら楽しい一時を過ごすことが出来ました。

次回は、少し趣向を変えて身近な史跡を訪ね、美味しいお酒で歴史を飲もうと考えておりますので、ご興味のある方はふるってご参加下さい。

連絡先：清水建設内